PMS-2556(19030)

施工説明書

# 吐水口引出式シングルレバー混合水栓
# eモダン（Lタイプ）

SF-E546S型

**工事店様へのお願い**

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

## 1.施工の前に

### 安全上のご注意

●施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
●ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
●いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
●この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

**用語および記号の説明**

**注意** …「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

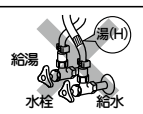
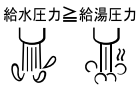
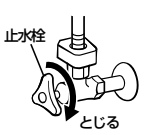
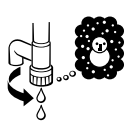
⚠ …「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

（禁止） …「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)

（分解禁止） …「分解してはいけません!」

（指示） …「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

**⚠ 注意**

| | | |
|---|---|---|
| （禁止） | **水道水および飲料可能な井戸水以外は使用しないでください。**<br>※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。<br>※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。 | |
| （禁止） | **湯水を逆に配管しないでください。**<br>※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。 |  |
| （禁止） | **給湯器の給湯温度設定は85℃以上で使用しないでください。**<br>※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。 | |
| （禁止） | **衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。**<br>※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。 | |
| （分解禁止） | **修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。**<br>※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。 | |
| （指示） | **給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。**<br>※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。 |  |
| （指示） | **ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。**<br>※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇しヤケドをする恐れがあります。 | |
| （指示） | **フレキホースの差し直しやストレーナの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。**<br>※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。 |  |
| （禁止） | **【寒冷地用の場合】**<br>**水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。**<br>※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。 | |
| （指示） | **【寒冷地用の場合】**<br>**お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。**<br>**寒冷地仕様の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。**<br>※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。 |  |

## 本製品の仕様と条件

| | | | |
|---|---|---|---|
| 給湯器設定温度 | 85℃以下 | 使用可能水質 | 水道水および飲用可能な井戸水（※1） |
| 使用環境温度 | 【一般地用】 0～40℃<br>【寒冷地用】 −20～40℃ | | 但し、内部の水を凍結させないでください。 |
| 給水給湯接続 | G1／2 | | |
| 圧力条件 | 0.07MPa(流動時)～0.75MPa(静水圧)<br>給水圧力≧給湯圧力（※2）<br>※0.07MPa(流動時)未満の場合は、泡沫で吐水されない場合があります。 | | |
| 取付条件 | 水栓取付穴：φ37±2mm、カウンター厚：6～30mm | | |

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

### ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

| | |
|---|---|
| 最低必要圧力 | A＋0.12MPa（流動時）※給湯器設定温度75℃ |
| | A＋0.07MPa（流動時）※給湯器設定温度42℃ |
| 最高圧力 | 0.75MPa（静水圧） |

**※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。**
測定条件は次の通りです。
●レバーハンドルは全開。
●給水温度5℃、吐出温度42℃。
●給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。

### 貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

| | |
|---|---|
| 最低必要圧力 | A＋0.07MPa(流動時) |
| 最高圧力 | 0.75MPa(静水圧) |

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。
●給水圧力は水栓直前における流動時の圧力です。

### その他の条件

●給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20～0.34MPa)に減圧してください。
●給湯に蒸気は使用できません。
●不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下をおすすめします。

## 施工前のご注意

### 取付に必要な工具

●取付には専用工具(KG-1またはKG-2)またはソケットレンチ(対辺24)、プライヤー、モンキーレンチ（呼び250以上）が必要です。

### 止水栓と点検口を設けてください。

●取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。
●使い勝手や性能発揮のために流量調節をしてください。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

### 補強材を使う場合

カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。

### その他の注意点

●給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
●給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
●給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
●商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
●開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
●必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。


株式会社 LIXIL

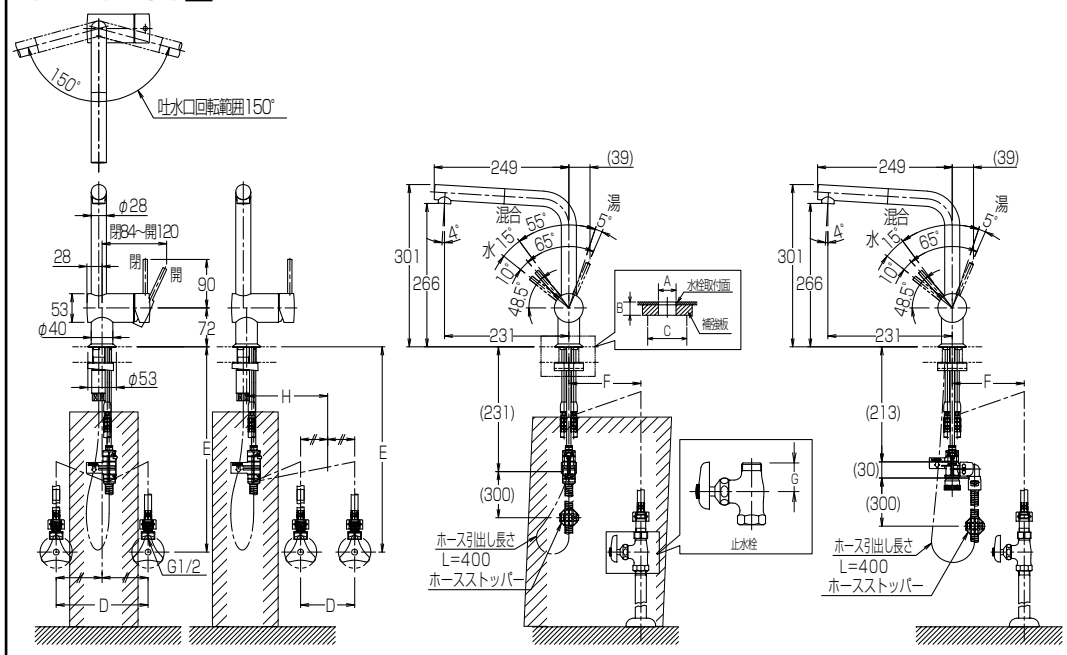
●商品・施工方法についてのお問い合わせ
お客さま相談センターまで
ナビダイヤル TEL 0570-017-173

受付時間 平日 9:00～18:00
土日・祝日 9:00～17:00
（ゴールデンウィーク、夏期、年末年始の休みは除く）

## 施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

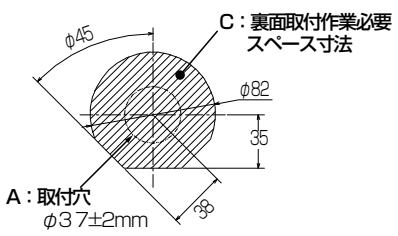
SF-E546S型




中心振分けの場合　片側偏芯の場合　SF-E546S型　SF-E546SN型

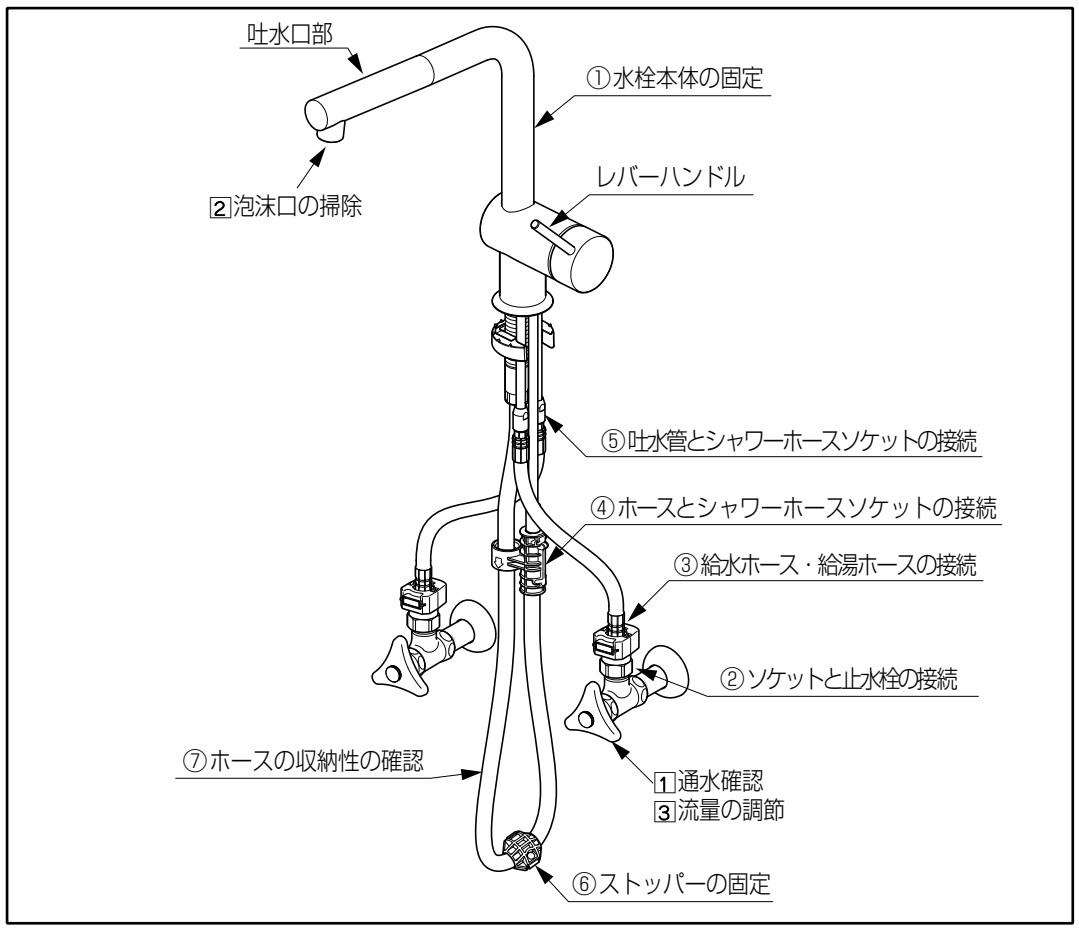
正面　正面

| | 中心振分けの場合 | 片側偏芯の場合 |
|---|---|---|
| A | φ37±2mm | |
| B | 6~30mm | |
| D | 200±10mm | 80~100±10mm |
| E | 400±10mm | 360±10mm |
| F | 0~−50mm | |
| G | 30~35mm | |
| H | 0mm | 120~150mm |




※湯水の止水栓（配管）の間のC範囲（▨部）には、分岐配管や障害物がないようにしてください。ホース出入れの障害になります。

## 施工手順

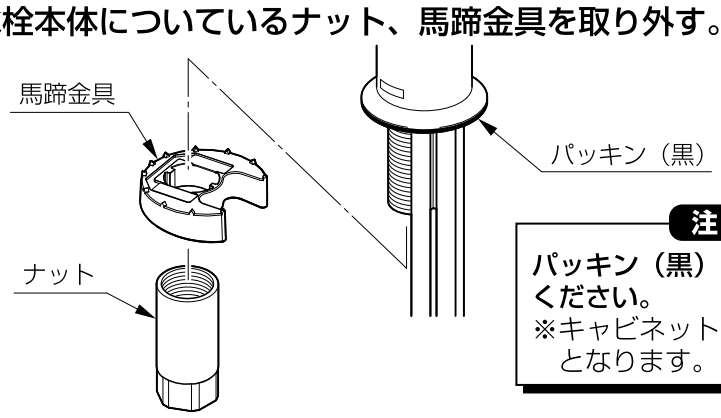



## 2. 施工方法

以下の手順の通り、正しく取り付けてください。

### ① 水栓の固定

**1.** 水栓本体についているナット、馬蹄金具を取り外す。

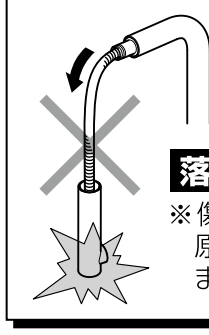



**注 意**

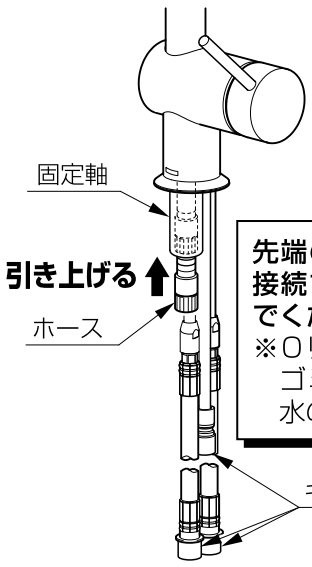
**パッキン（黒）は取り外さないでください。**
※キャビネット内への漏水の原因となります。

**2.** ホースの先端が固定軸の中にかくれるまで引き上げる。

**注 意**



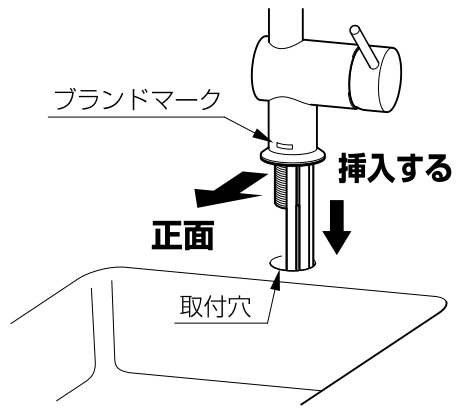
**落下注意！**
※傷や破損の原因になります。




**注 意**

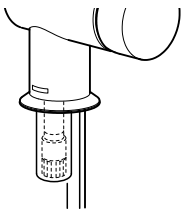
**先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。**
※Oリングに傷がついたりゴミがかみ込むことで漏水の原因になります。

**3.** ブランドマークが正面を向くようにして水栓取付穴に挿入する。

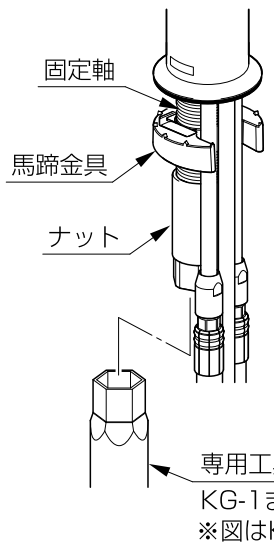



**ポイント**

**ホースの先端が固定軸の中にかくれた状態で取付穴に挿入してください。**

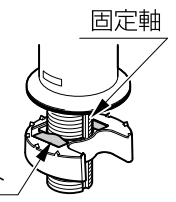


**4.** 馬蹄金具を固定軸に挿入しナットで締め付ける。



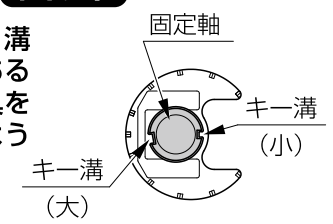

**ポイント**

**馬蹄金具から手を離しても落ちてこないように、一時的に固定軸に引っ掛けられるようになっています。**



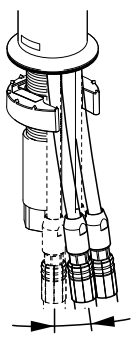

**ポイント**

**固定軸にキー溝（大、小）があるため、馬蹄金具をキー溝に合うように取り付ける。**

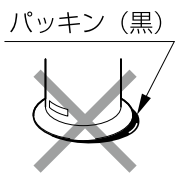



**ポイント**

**専用工具が入りにくい場合は、銅管を曲げて銅管とナットの間にスペースを作ってください。（曲げ角度は5°以内のこと）**
※曲げすぎると、配管を傷つけ漏水の原因になります。

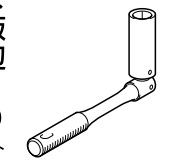



**注 意**



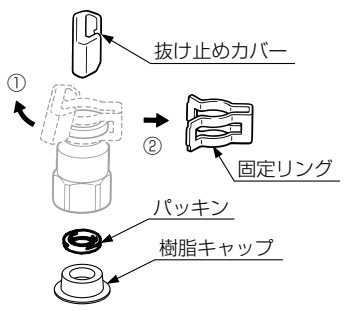

●**パッキン（黒）がズレてはみ出さないように注意してください。**
※キャビネット内への漏水の原因になります。

●**別売の専用工具（KG-1またはKG-2）もしくは市販のソケットレンチ（対辺24）を使用してください。**
※ナット締付け不足によりガタつきやキャビネット内への漏水の原因となります。




### ② ソケットと止水栓の接続

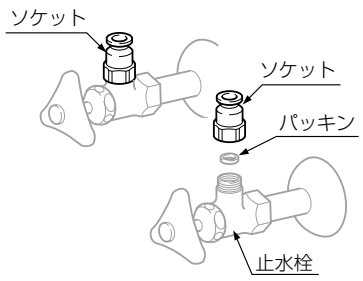
**1.** 抜け止めカバー、固定リング、樹脂キャップを取り外す。




**注 意**

**パッキンの紛失に注意してください。**
※漏水の原因になります。

## 2. ソケットを止水栓に固定する。

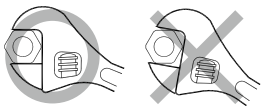



**注 意**

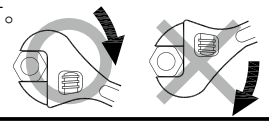
**締付けは、ソケット本体に工具を掛けてください。**
※ソケットカバーを持って締付けたり、工具を掛けると、破損し、漏水の原因になります。

注 意

**●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。**
※締付け不足により、漏水の原因となります。

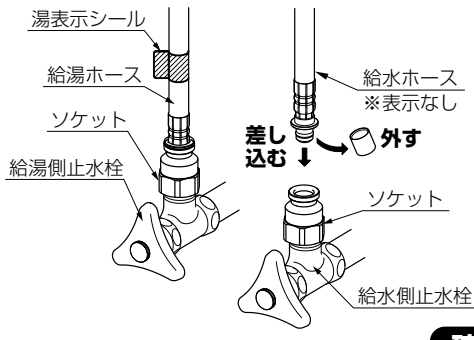


**●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。**
※締付け不足により、漏水の原因となります。
※水栓金具や工具が破損する恐れがあります。



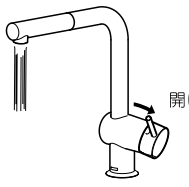
# ③ 給水ホース・給湯ホースの接続

## 1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。



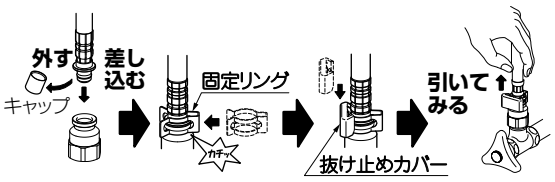

**ポイント**

**ホースが挿入しにくい場合は、ハンドルを開けた状態で施工する。**



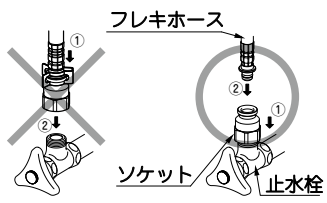

**確 認**

**ホース差し込み後、給水・給湯ホースを上に引っ張って、抜けない事を確認する。**
※固定リングと抜け止めカバーを確実にはめ込む！
※ホースを上に引っ張って、抜けない事を確認する！




**注 意**

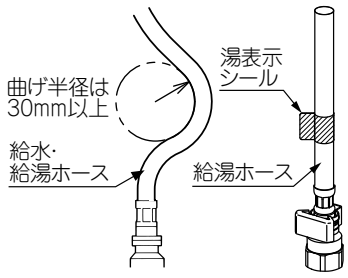
**●必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。**
**●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないように注意してください。**
※漏水の原因となります。



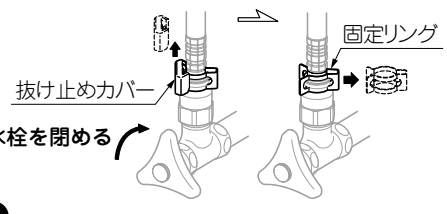

給水・給湯ホース接続時の注意事項

**注 意**

**●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保しホースを折らないようにしてください。**
※漏水や流量低下の原因となります。
**●ホースを無理に引っ張ったり、ホース外層に傷がつくような接触は避けてください。**
※漏水や故障、ヤケドの原因になります。
**●給湯配管には、給湯ホースのみ接続してください。**
※漏水や故障、ヤケドの原因となります。



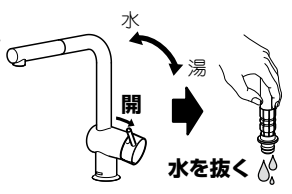

## 2. 給水･給湯ホースを外すときは止水栓を閉め、抜け止めカバー、固定リングを外してホースを上に引く。




一度外した給水・給湯ホースを再接続する場合

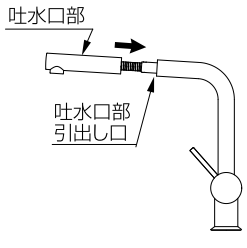
**注 意**

**●湯側・水側のハンドルを開け、ホースから水を抜いてから実施してください。**
※正しく施工できなかったり、漏水の原因となります。
**●③-1の確認項目や、ポイントも必ずご確認ください。**
※漏水の原因となります。



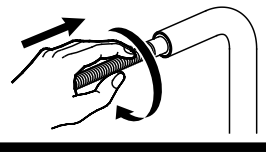

# ④ ホースとシャワーホースソケットの接続

## 1. 吐水口部を吐水口部引出し口に納める。

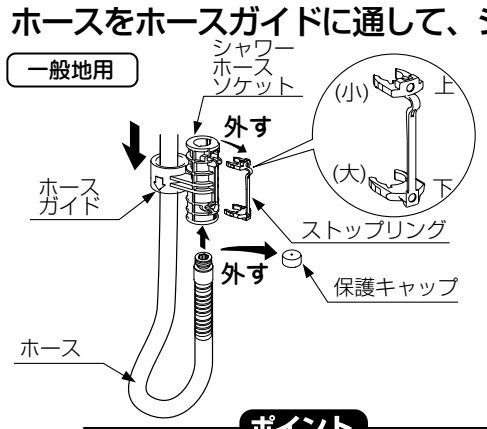


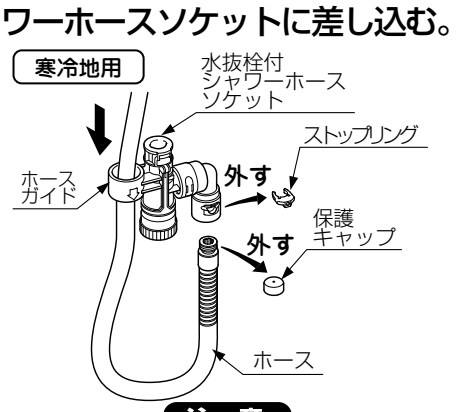

**ポイント**

**ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させてください。**



## 2. ホースをホースガイドに通して、シャワーホースソケットに差し込む。



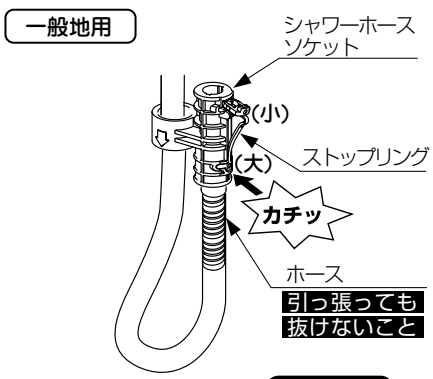

**ポイント**

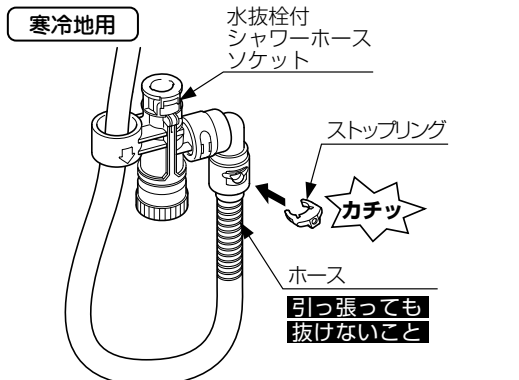
**シャワーホースは奥までしっかりと差し込む。**

**注 意**

**ストップリングを紛失しないように注意してください。**
※シャワーホースが固定できず、漏水の原因となります。

## 3. ストップリングをシャワーホースソケットに差し込んだ後、ホースを引っ張っても抜けないことを確認する。



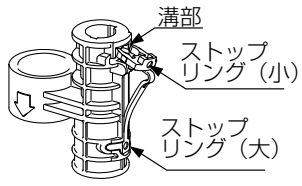

**注 意**

**ストップリングは、しっかりとはめ込んでください。**
※ストップリングが外れると漏水の原因となります。

**ポイント**

**ホースを引っ張っても抜けないこと。**

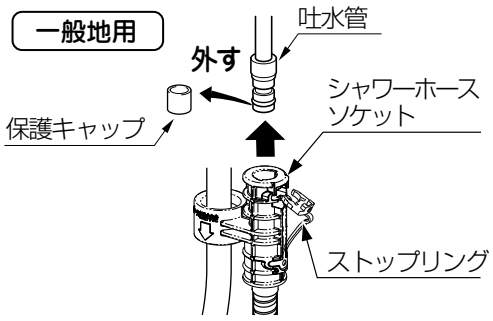
**ポイント**

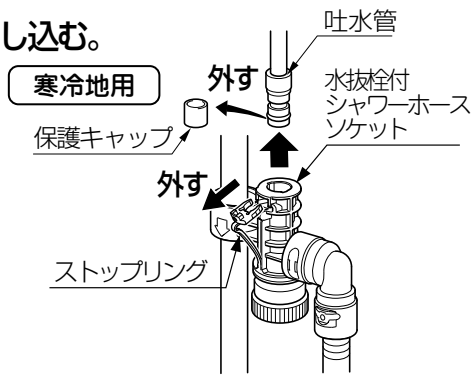



**あらかじめストップリング（小）をソケット溝部に設置しておくと、取付作業が容易になります。**

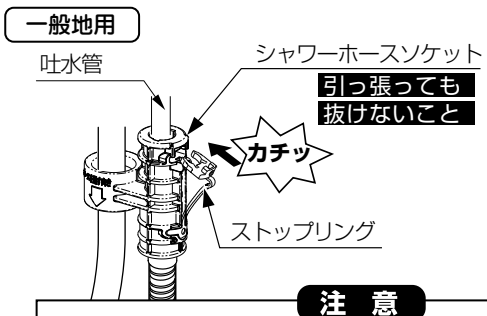
# ⑤ 吐水管とシャワーホースソケットの接続

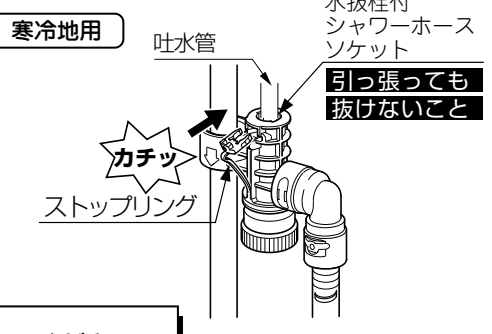
## 1. シャワーホースソケットを吐水管に差し込む。



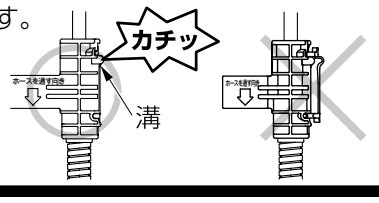

## 2. ストップリングをシャワーホースソケットに差し込んだ後、シャワーホースソケットを引っ張っても抜けないことを確認する。



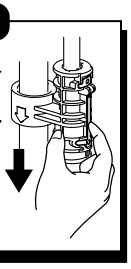

**注 意**

**●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。**
**●ストップリングがシャワーホースソケットの溝に納まっていることを確認してください。**
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。



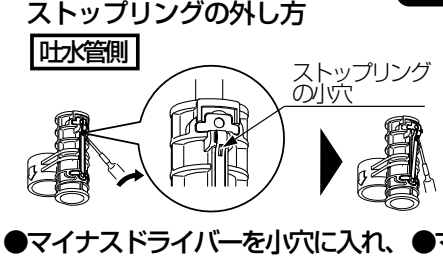

**確認**

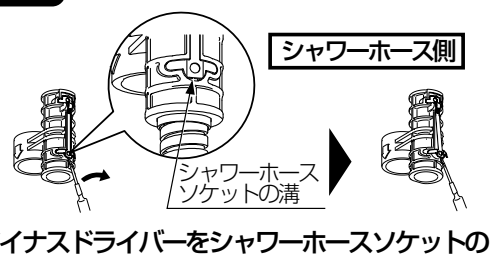
**シャワーホースソケットを引っ張って、抜けないこと。**



**ポイント**

ストップリングの外し方



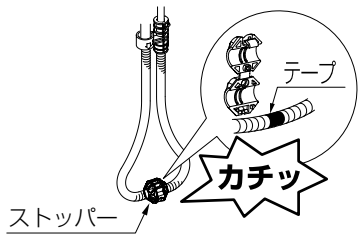




**●マイナスドライバーを小穴に入れ、矢印方向に引き出して外します。**

**●マイナスドライバーをシャワーホースソケットの溝に入れ、矢印方向に引き出して外します。**

## 6 ストッパーの固定

ストッパーをテープを覆うように取り付ける。




**ポイント**

吐水口部は吐水口部引出し口に納めた状態で行う。

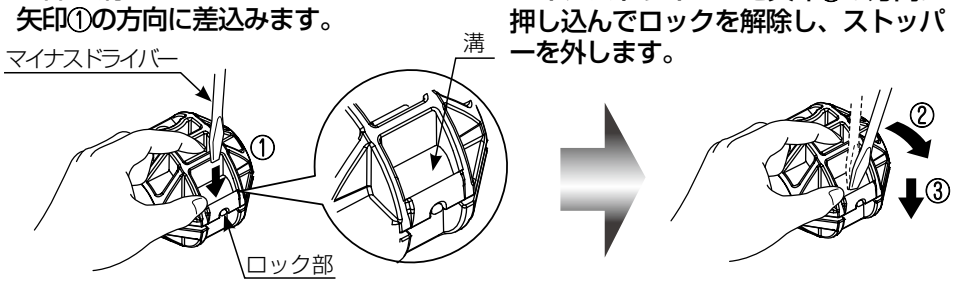
**ポイント**

ストッパーの外し方

1.ストッパーを指で押さえます。ロック部の溝に、マイナスドライバーを矢印①の方向に差込みます。

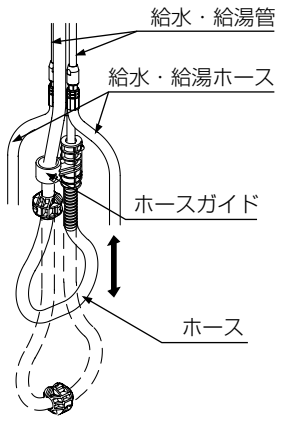
2.差込んだマイナスドライバーを矢印②の方向に傾けます。

3.マイナスドライバーを矢印③の方向に押し込んでロックを解除し、ストッパーを外します。




## 7 ホースの収納性の確認

**1.** 吐水口部を出し入れし、ホースが、給水・給湯ホースや他の配管等と干渉せずにスムーズに上下に動くことを確認する。



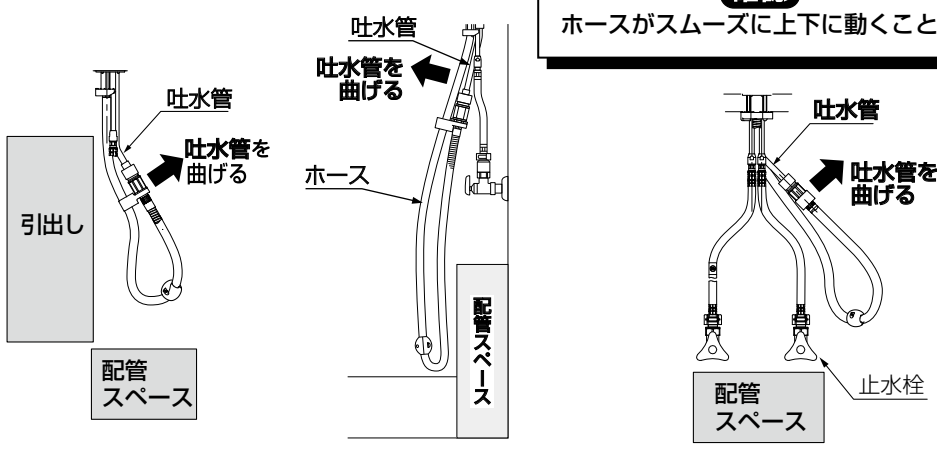

**ポイント**

- ホースがねじれていない状態で、給水・給湯ホースと干渉する場合は、給水・給湯管を、軽く曲げてホースの干渉を避けてください。
- ホースが他の配管等と干渉し、ホースがスムーズに上下しない場合は、ホースガイドを回転させて、ホースとの干渉を避けてください。

**2.** ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐水管を軽く曲げて、ホースの干渉を避ける。

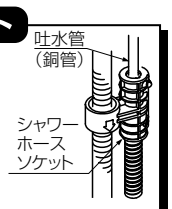
**確認**

ホースがスムーズに上下に動くこと。




**ポイント**

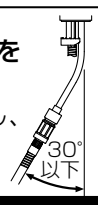
シャワーホースソケットを接続した銅管が吐水管です。




**注 意**

吐水管を曲げる場合は、曲げる角度を30°以下としてください。

※無理に曲げると吐水管が損傷し、漏水の原因になります。



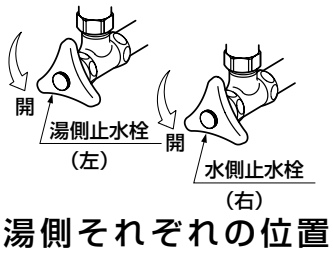

# 3.施工後の調整

以下の手順の通り、正しく調整してください。

## 1 通水確認

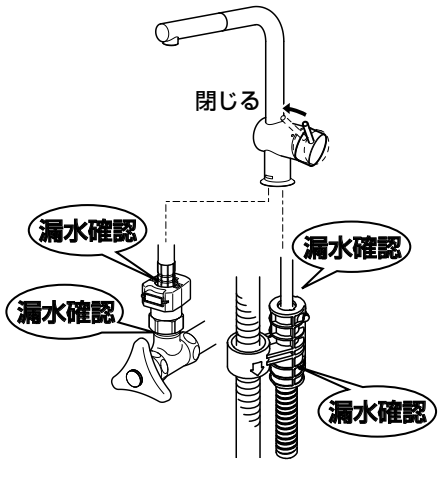
通水確認を以下の要領で行ってください。

**1.** レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水・給湯の止水栓を開く。



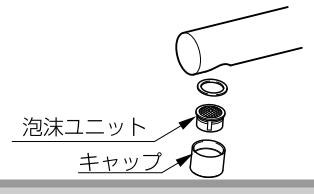

**2.** 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。

**3.** レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。



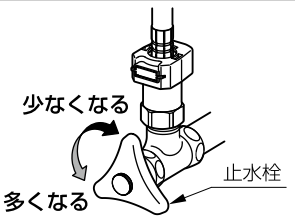

## 2 泡沫口の掃除

手でキャップを回して泡沫口を取り外し、泡沫ユニットを水で掃除してください。




## 3 流量の調節

レバーハンドルを全開にしたときシャワーの流量が湯と水でそれぞれ約8L/min(※)を超える場合は、止水栓で流量調節をしてください。
(※:1リットルの容器をいっぱいにするのに約9秒)




# 4.引渡し前の確認

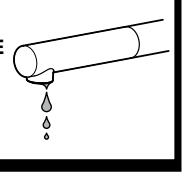
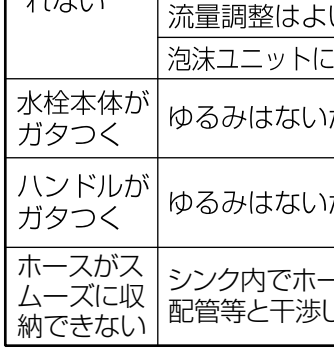
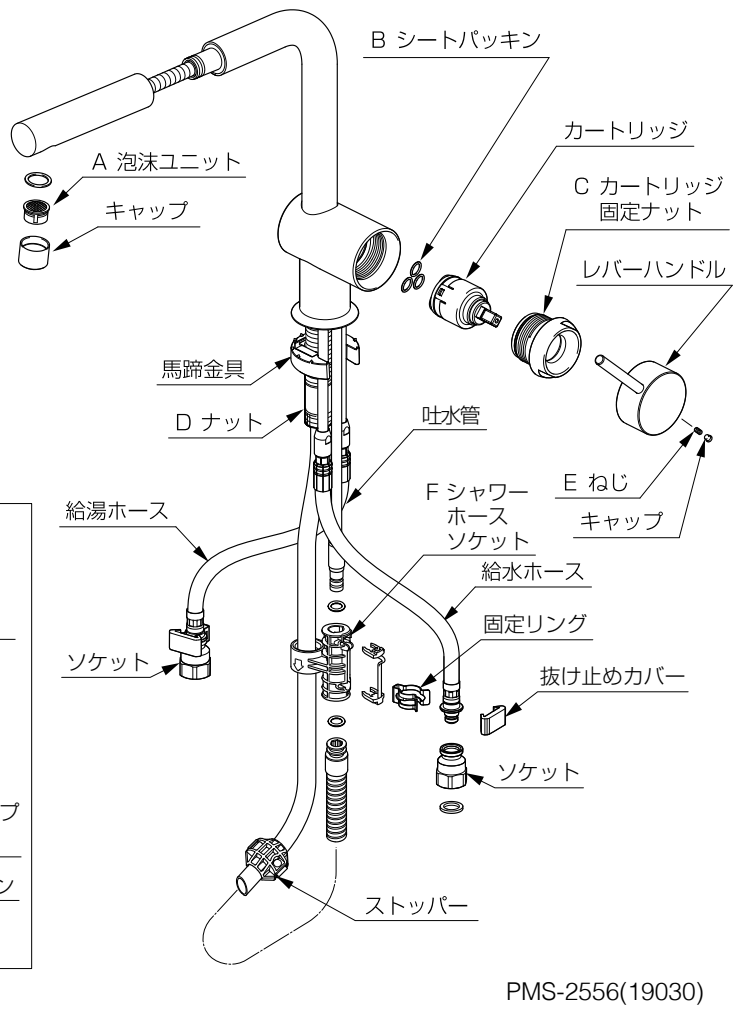
引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

| 現　象 | 点検内容 | 点検箇所 | 処　置 |
|---|---|---|---|
| 流量が少ない | 圧力は十分か？ | − | 「本製品の仕様と条件」の項参照。 |
| | 止水栓は十分開いているか？ | − | 止水栓を十分開く。 |
| | 泡沫ユニットにゴミ詰まりはないか？ | A | ゴミ等を水で洗い流す。 |
| | 配管途中に大きな抵抗はないか？ | − | 抵抗となる障害物を取り除く。 |
| 水が止まらない | ゴミかみはないか？ | B | ゴミ等を水で洗い流す。 |
| | キズはないか？ | B | キズがあればカートリッジ(Bシートパッキン付)を交換する。 |
| | ゆるみはないか？ | C | カートリッジ固定ナットを締める。締過ぎるとレバーハンドルが重くなることがありますので注意してください。 |
| レバーハンドルが前方水平まで回らない | レバーハンドルの操作位置は正しいか? | − | エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照) |
| 希望の温度が得られない | レバーハンドルの操作位置は正しいか? | − | エコハンドル仕様のため、レバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照) |
| | 圧力は十分か？ | − | 「本製品の仕様と条件」の項参照。 |
| | 流量調整はよいか？ | − | 「流量の調節」の項参照。 |
| | 泡沫ユニットにゴミ詰まりはないか？ | A | ゴミ等を水で洗い流す。 |
| 水栓本体がガタつく | ゆるみはないか？ | D | ナットをしっかり締める。 |
| ハンドルがガタつく | ゆるみはないか？ | E | ねじをしっかり締める。 |
| ホースがスムーズに収納できない | シンク内でホースがねじれたり、配管等と干渉していないか? | F | 「ホース収納性の確認」の項参照。 |

**ポイント**

**故障ではありません。**

- 水を止めた後に少しの間水が垂れますが、吐水口内部に溜まった少量の水が排出される為で、故障ではありません。



**【寒冷地用】**